

# 躍進

YAKUSIN

No. 15

株式会社 加藤組社内報「躍進」

発行日／平成4年5月1日

発行／株式会社 加藤組

男鹿市脇本脇本字向山18-6 TEL (0185) 25-3001(代)  
FAX (0185) 25-2234



KATOGUMI CO., LTD

株式会社 加藤組

光飯商事株式会社 日本アスコン株式会社  
秋田ブロック工業株式会社 秋田建設運輸株式会社



全員集合  
安全旗を掲揚し  
決意も新たに  
新年度のスタート



# 新年度を迎えて



## 時代の流れに遅れないように

### 専務取締役 瀧 本 史 郎

新年度を迎え、官公庁発注工事を主として実施している当社にとっては、正月とはまた違った意味での気持ちの引き締めを覚える時期になりました。

四月は各官公庁とも、恒例の人事異動が行なわれ、日頃なじんできた担当官の多くが新しいポストに変わりますので、事業実行面でも、営業活動面でも、しばらくは何かと戸惑うことと思いますが、できるだけ早い時期にお互いが胸襟を開いて話し合えるように心掛けて下さい。

### 格付の向上を

#### 目指して

平成三年度の当社の受注状況をみますと、前年度に比較して、件数では二十五%程度増加しているものの、金額では十%前後より増えています。この十%前後の増ということは、人件費や資材、器材等の上昇率をみますと、横這いか、逆に下回るようなもの

ですし、また、件数増の金額横這いということは、少額工事が多かったことになり、それだけ苦労が多く、中には現場の皆さんの大変な努力にもかかわらず、生産性の芳しくない現場が数件みられました。官公庁等が工事を発注する場合は、会社の格付けによってランク、工事額が決められますが、格付けの評価については数年前からは、完成工事高ばかりでなく、むしろ、資本金や技術力、利益率等、会社の内容、体制、完成工事の評価点等が重視されるように変わってきておりますので、これからは、より精度の高い品質、出来形、安全でゆとりのある工程管理により、いかに多くの利益をあげるかが大きな課題であり、受注拡大の決め手になると考えられます。

今年度は、景気浮揚対策のこともあって、二月末頃から、ゼロ国債、有国債の形で発注されており、さらに前年度は、前倒し発注等で、上半期に全体の七十五%以上の発注が予定されているとも聞いておりますので、年度始めの新たな気持ちとファイトで、受注体制、実行体制を整備しなければなりません。



### 概算発注

#### への対応

今後の官公庁等の発注の考え方について少し触れてみたいと思います。

官公庁では、週休二日制の完全実施、有給休暇の完全消化、定員削減等、いろいろの事情から、工事を大型化し発注件数をできるだけ減らす方向にあるといわれておりますし、また、最近では発注者によ

る従前の現場説明に代えて設計図書の内容を十分にチェックする、施工業者が変更手続きをしたうえで精算する方式に変わってきているので、設計図書の内容を十分にチェックする、施工業者が変更手続きをしたうえで精算する方式に変わってきているので、設計図書の内容を十分にチェックする、施工業者が変更手続きをしたうえで精算する方式に変わってきているので、設計

近い将来、自主的的施工から責任施工（現在、試行的に一部実施中）へと移行、定着化の時代がくると思われれます。したがって、以前のように常時監督員の指導のもとでなければ施工できない企業は敬遠されることになるし、平成二年六月の建設業法一部改正に伴い、主任技術者の専任義務がさらに明確化され、異なる発注機関でも兼任がチェックできるシステムになっており、専任配置ができないような企業は受注機会が減少し、自然淘汰される時期にきてい

### 新工法の

#### 積極的導入

工法、施工方法についても、プレハブ化、プレキャスト製品の使用、機械化による新工法の積極的採用等、省力化工法の検討もされているので、当社でも旧態依然としたやり方だけでなく、少しでも省力化できるような創意工夫をこらしながら、日々の業務を進めていくことが大事であると思

大きく影響し、若い世代から敬遠されていることから、建設省でも各作業場のイメージアップ対策を重要視し「働きやすい環境作り」に要する費用についても設計面に反映させることを検討中であると聞いております。

### 社内検査と

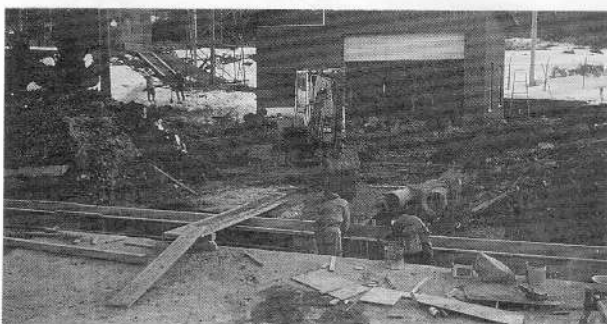
#### 責任施工

社内検査については、当社社長が部長をして「東北地建土木工事合理化委員会秋田部会」でも検討課題として取り上げ、いろいろの問題点について、発注者側とも協議しながらその定着化に向けての作業を進めているところであり、いづれにしても、変更処理の問題、確認検査の問題等、従前は発注者側で実施していた業務を施工者側で肩代りするような時代になってきており、契約方式も

### 安全に、楽に、

#### 清潔に

建設業は、三K産業だとか、六K-Y（危険、汚い、きつい、恰好が悪い、給料が安い、休暇がとれない、屋根がない）などとマスコミの宣伝効果が



# 社員登用おめでとうございます

1月1日付けで、新しく10名の方が社員に登用され、1名の方が準社員に登用されました。心からお祝い申し上げます。

会社のために働くのには、社員も、準社員も、作業員も同じであるはずですが、準社員から社員に登用されるということは、それだけ会社に認められ、期待され、処遇も改善されるわけですから、その期待に応えるためにもさらに努力するよう希望します。

昭49・4 入社  
61・1 第35海光号艇長  
平2・2 海光号  
チーフリーダー



さ さ き と し お  
**佐々木敏雄**  
昭27.5.28生

昭45・1 入社  
52・4 建設機械副主任  
59・4 建設機械係長



よ し だ ひ ろ の り  
**吉田博範**  
昭23.3.10生

昭59・5 入社  
平3・6 土木副主任  
4・1 能代港副主任



う ち だ と お ろ  
**内田透**  
昭39.10.4生

昭53・3 入社  
61・1 土木副主任  
平4・1 土木主任



し も ま た だ し  
**下間正**  
昭17.11.10生

昭57・1入社  
59・4 車両主任



あ ん だ う ま さ は る  
**安藤政春**  
昭18.9.17生

昭48・4 入社  
59・4 舗装主任  
61・1 土木主任



い だ う し ん じ ろ う  
**伊藤新次郎**  
昭21.1.26生

昭48・9 入社  
58・5 第26海光丸船長  
平2・2 海光丸  
チーフリーダー



え ば た よ し かつ  
**江畑芳克**  
昭16.11.19生

昭53・4 入社  
63・12 戸賀出張副主任  
平元・4 第36海光号艇長



も と か わ よ し た だ  
**本川良忠**  
昭19.10.20生

昭58・5 入社  
平3・6 機械主任



か ま だ さ だ み つ  
**鎌田定光**  
昭31.1.16生

昭48・11 入社  
平4・1 試験主任



さ ざ わ よ し あ き  
**佐沢芳昭**  
昭23.2.2生

## 港湾技術部を新設

本部長に 加藤政雄 技術管理 本部長(兼務)

当社の港湾関係の仕事は、昭和四十四年から始められましたが、着実に業績を伸ばし、現在では、全受注額の三割程度を占めております。この時に当たり、船の経験が豊富な加藤本部長によって、担当者が結束して、さらに効率的な仕事を進めるよう期待されます。

## 人事異動

○(株)加藤組 4・1・1付

○梁田耕次 営業部次長(兼務)

○長谷川由造 森吉事業所長(兼務)

○小野俊剛 能代港建設事務所長

○夏井直弥 土木課土木係長

○佐藤謙一 AP試験係長

○下間正 土木課土木主任

○内田透 能代港建設副主任

○光飯商事(株) 伊藤剛樹 資材管理課長(兼務)

○近藤秋信 資材管理係長

○栗森吉照 O A システム部長代理

○鈴木浩悦 O A システム係長

○日本アスコ(株) 米屋真一 業務課長

○佐沢芳昭 試験主任

○加藤真由美 試験課(兼務)

秋田建設運輸(株)

○鈴木一秋 輸送主任

○薄田正幸 輸送副主任

○安田兼義 輸送副主任

(株)加藤組 4・4・1付

○加藤政雄 港湾技術本部長(兼務)

○小野利光 第26海光丸船長(兼務)

○江畑芳克 第25海光丸船長(兼務)

○薄田正幸 土木部機械副主任

○船木光一 土木部土木副主任

## 新入社員紹介



お や ま だ は る き  
**小山田春樹**  
昭47.3.30生

## 準社員に登用



あ き や ま と し の り  
**秋山俊則**  
昭16.3.21生

平成二年六月入社

# 労働時間短縮にどう取組むか

労働時間の短縮について世論が高まっています。当社も昨年4月から、週46時間に短縮しましたが、労働基準法では週40時間を目標としており、国家公務員は、5月1日から完全週休2日制（週40時間労働）になります。

建設業の場合は、いろいろの外的条件が厳しく、残業や休日勤務が多く、時間短縮が困難な実情になっています。そこで、当社の中間管理職4人に問題点、対策を述べてもらいました。

## 受注前に問題解決を



土木課長

佐藤 忠成

労働時間の短縮が社会的な命題としてとりあげられていくなかで、当社の場合、というよりも、建設業全般としてなぜ休日出勤が多いのか、自分なりに考えてみました。

仕事には、発注者から定められた工期というものがあつたこの工期までに完了させることが最大の義務です。

一定の期間内に設計数量に見合う工事内容、工事出来高を完成させるためには、必要な作業日数の確保が大切であります。この作業日数は、標準歩掛りによって算出されます。しかし、最近では三K問題もあつて作業員の絶対数が不足し、さらに高齢化によって能率が低下しております。

建設省等においても、機械化などによる作業の能率化を検討中であると聞いておりますが、少ない人数で、休日を満度にとり、工期内に完成させるためには、どうしたらよいのでしょうか。

まず、受注する以前に、現場のリサーチを行い、工事の進捗に支障のある要因を洗い

だしておく。つまり、受注額が多いほど利益が多いという既成概念を捨てる必要があります。今まで遅れた現場のほとんどがこの点に起因していると思います。

次に作業員の問題です。絶対的な人手不足、特に技術者の不足と高齢化による能率低下の問題です。

特殊作業（舗装、港湾及び型枠作業）の人手不足は限界に達しています。これらの作業が複数の現場で並行実施す

る場合は、工期の順序どおりに職人を配置するため、工期の遅い現場にしわ寄せがきてしまいます。

これらについても、受注後にある程度考慮すれば解決できると思われるし、無駄なコストをかけるよりも、下請を活用すれば済むことだと思います。

作業員のオペレーターや職員の絶対数が不足しているのですから、今までどおりの事業量を完全に消化するのは無理だと思えますので、効率的な仕事をするためには、会社のため、社員のため、割切るところは割切っていただきたく、これが数年先のことを考えての課題だと思えます。

休日は休みなさい、という

## 休める工程表を

日本アスコン業務課長



米屋 真一

現在、当社の現場勤務者は

仕事に追われ、日曜日も祝日も休みなしで働いている状況です。これは、当社ばかりでなく、建設業全般にいえることでもあります。

三Kといわれている建設業以外の企業では、週休二日制になりつつあるといわれてお

上司の言葉は、思いきった改善がなされてこそ実現できることなので、目先のことばかり考えていけないで、内なる障壁を治療しなければならぬと思うのは、私一人だけの考えでしょうか。

作業員の賃金問題についても述べてみたいと思えます。

作業員は日給制ですから、休日が増えれば、当然のこととして収入が減り、賃金のみで生計を支えている者にとつては、労働時間の短縮は、生活上の極めて大きな問題になります。労働日数が減って収入が変わらないということは単価の上昇になり、会社にとっては大きな負担になると思いますが、業者側もそのことを認識し、密度の高い労働

して行ってしまう人が多いそうです。

今の若い人たちの希望は、給料の高いところを望むことは当然ですが、それ以上に、休みが多いこと、最低でも日曜と祝日、土曜は半ドン、そして仕事が楽なところ、といったようなことです。

これらの希望をすべて満たすことは是非は別として、このままでは建設業を希望する若者がだんだんなくなってしまうそうです。

力を提供するよう心掛け（高齢化の現状では無理だとは思いますが）、現場担当者は、あらゆる無駄を省き、効率的作業の実施に努めなければなりません。

年末や年度末は、いつでも無休で仕事をしているのが実情で、仕事の進め方を真剣に考える心の余裕がないまま、思いつくことを述べましたが、よりよい会社にするため、他社の参考、手本になり、若者が建設業を希望するようにするために、あえて苦言を述べさせていただきます。

これからの、皆んなのアイデアを活用し、無事故、無災害で頑張っていこうではありませんか。

日を増やす（労働時間短縮）こと以前の問題として、現在の休日をもっと完全に休めるようにすることが大切で、そのためにどうしたらよいか、私の考えを述べてみます。

一、当社では、工事を受注してから着手するまでの期間が長いような気がします。いろいろの理由があるでしょうが、発注側で休める余裕のある工期で積算しても、着手が遅いため、結局、休めなくなってしまうのです。

二、現場代理人は、工程を作

# 一歩でも近づけよう



○Aシステム開発部長代理

栗 森 吉 照

○Aシステム開発部の年間総労働時間の短縮について述べたいと思います。

現在、開発部は男四名、女二名のスタッフで仕事をしておりませんが、昨年九月頃から仕事量が増え、残業と休日出勤の繰返しで、私自身も、仕事のやりすぎではないかと思っております。

受注している仕事の種類が多いため、発注元からいわゆる納期は、無条件で守らなければならない、残業や休日出勤を避けることができないのです。

特に今年、新規の業者が十二社ほど増えたこと。

富士通の大型プロジェクトに参加したこと。

データパンチ入力の新規事業に着手したこと。

当社の電算業務の変更時期にあたること。

などが重なり、多忙を極めました。このため、労働時間の短縮という社会的な命題は理解しながら、その実現は難しい状況にあります。

問題を整理してみますと

- 一、開発部が新しい部署で実績がないため、発注元の意向に添わないと、注文を打切られるおそれがある。
- 二、コンピュータ関係の仕事は、決算期後に導入する場が多くなり、仕事が重なる。
- 三、最近の仕事の発注規模が

大きくなり、一つのプロジェクトに多数のスタッフが係わるためのスタッフ不足

- 四、自社開発のソフトパッケージの受注が増え、それに伴ってサポート関係の仕事が増加した。
- 以上の四点であり、これを解決しなければなりません。

## 業務の簡素化が必要

建築課長

伊 藤 満

毎月開催されている幹部会議では、いろいろの問題が提起され、課長、チーフリーダークラスで活発に論議されています。そのなかで、労働時間

の短縮や、工期の余裕がない現場の救済策などが話題になります。このうち、直ちに解決できたものもありますが、まだまだ改善すべき問題が山積しております。

いま一番苦勞しているのが休日出勤の問題だと思います。工期が短かくて苦しいもの

増員する——等の意見がでており検討中ですが、決定までにはまだ時間がかかりそうです。

（米屋課長の続き）

開発部にとって、労働時間の短縮がいかに難しいかを理解いただけたと思います。このままではならないと認識しております。

労働時間の短縮が、社会的な命題でありますので、私たちも仕事の調整、効率的な作業の進め方等によって、一歩でも近づけられるよう努力したいと思っております。

さまれて、映画の「バカヤロウ」のシーンを思い浮かべながら途方に暮れてしまうことがあります。

私なりに時短について考えてみますと、現場は工期が決められていますので、作業員や機械力の増強、工法の改善しかありませんが、いずれも簡単には実現できないものばかりです。

現場の事情に対し発注者側の理解や協力業者の努力にも限界があり、残業に頼ることになってしまいます。しかし現場代理人の責任感（会社への奉仕というよりも、技術者としてのプライド）によって

（米屋課長の続き）

あらゆる段取りをし、夜にわたって書類作成をやっているのが実情です。この状態は当社だけでなく、建設業界全般にいえることで、労働時間の短縮以前の課題として、現在の所定労働時間を守ることがすなわち、残業を少なくし、休日には必ず休めるような体制づくりが必要だと思います。

労働時間の短縮は、単に人員増だけでは解決するものではありません。優れた人材の集団でなければ達成できないと思いますので、会社の基礎をしっかりと固めてから時短を実行しないと、単に仕事が減って労働時間が少なくなったという歪んだ週休二日制、非常識な時短になってしまいます。

私は、労働時間短縮のため

場を指揮するか、代わりの社員を派遣するなどの気配りも必要です。

- 四、会社としても、福利厚生を充実させ、若い技術者が就職を希望するような基盤をつくることだと思えます。
- 最後に、私たち社員の心構えとして、働く時は精一杯働
- き、休む時は完全に休むという意識改革が必要です。休日にはしっかり休んで、元気を回復させ、元氣な体調で勤務につくことが大切です。

の第一段階の方策として、次の十項目を提案したいと思います。

- 一、無駄な書類の廃止は当然として、必要不可欠な書類の作成に限定する。
- 二、会議は簡素化する。
- 三、現場の資材は、必要により直接注文し、手配する。
- 四、抽象的な表現になります。が福利厚生面の充実。
- 五、各自の技能向上と、優れた人材の確保。
- 六、課長以上の現場把握と指導力の発揮。
- 七、健全な協力業者の育成と工法の改善。
- 八、積算様式の統一。
- 九、実行予算作成の簡略化。
- 十、社内での協調により、仕事に集中できるよう上司が配慮し、工期短縮に努力。

# 純和風レストラン の新築を担当して

# 現場レポート



建築係長  
**加藤 久人**



男鹿工業高校前の船越内子地区には、昨春秋にジョيوفルシティが開店してから、洋菓子店や衣料品店などが続々進出し、さらにはホームセンターの新築計画があるなど、男鹿市の新しい商業拠点に様変わりしておりますが、ここに純和風のレストラン「きりん亭」が開店しました。

この工事を担当した者として感慨に耐えません。昨年九月、設計図を見せ

られ、工事を担当するよう指示されたときは、正直いって自信がありませんでした。というのは、当時、大潟村営住宅の新築を担当していて多忙であったこととこのレストランは純和風で、二六〇坪という大きな規模で、私としてもこれ程の規模の木造建築を初めて担当するといふ不安もありました。

木造の場合は鉄筋コンクリートと違い、仕口、継手（土台と柱、柱と梁などの接合部分）が生命で、強度はもちろん、外見上の決め手にもなり一人ひとりの職人の腕の見せどころなのです。しかも最近では、どの部門でも職人不足で苦しんでいるのです。

その点、今回は宮長組さんの全面的なご協力により、協力業者十数社との関係も円滑にいきました。

降雪前に屋根や側面が出来て、厳冬期も屋内作業の形となり、比較的恵まれた環境だったと思います。

しかし、発注者が民間であることと、建物そのものに多くの趣向をこらしている関係もあって、工事中に発注者か

ら、設計変更というほどのものではないが、いろいろの注文がだされ、対応に苦勞しました。

完成された今振り返ってみて、素晴らしい出来映えに、当時の苦勞はすっかり消えた感じがします。

この純和風レストランに、お客さんが多く来て繁盛することを祈りたいと思います。



現在実行中の主なる現場

- 岩沢工事用道路  
（東北横断自動車道関連）  
工期 八月十八日  
現場代理人 原田康文
- 能代港灰捨護岸建設  
護岸延長三〇四m  
工期 五年五月三十一日  
現場代理人 小野俊剛
- 秋田港ふ頭用地造成  
護岸七五m、ケーソン及び三柱ブロック製作、据付



事務所勤務の  
**加賀 美由紀**さん

ら、設計変更というほどのものではないが、いろいろの注文がだされ、対応に苦勞しました。

完成された今振り返ってみて、素晴らしい出来映えに、当時の苦勞はすっかり消えた感じがします。

この純和風レストランに、お客さんが多く来て繁盛することを祈りたいと思います。

今年も暖冬異変といわれ、降雪量は少なかったものの天候は不順で、年度末工期の各現場は大変苦勞しましたが、現場担当者の日曜、祝日返上の頑張りでも無事完成させました。ご苦勞様でした。

液部係長担当  
重要港湾改修（船川）  
原単港湾整備（船川）  
三浦課長代理担当  
秋田湾雄物川流域下水道  
重要港湾改修（増川）  
石川係長担当  
秋田東住区下水道  
成田主任担当  
排水対策特別事業  
夏井係長担当  
地方港湾改修  
佐藤主任担当  
緊急地方道整備（湯本）  
港湾防災工事  
荒木係長担当  
緊急地方道整備（湯本）  
河川災害関連工事（北浦）  
伊勢谷課長代理担当  
備蓄交付金道路（男鹿中）  
沖田台地区かんがい排水  
金子係長担当  
自衛隊消防車庫新築  
加藤係長担当  
レストランきりん亭新築  
大潟村営住宅新築  
小熊係員担当  
教育学部屋根改修

●下新城舗装修繕  
（国道七号線）  
工期 七月十日  
現場代理人 佐藤雅宜

●幹線電力線路新設  
延長 二七〇〇m  
工期 五月二十日  
現場代理人 太田健一

●自衛隊局舎新築  
RC一部二階、六一九㎡  
工期 五年三月三十一日  
現場代理人 金子憲行

●港湾環境整備（船川港）  
盛土二四、八〇〇㎡  
工期 七月三十一日  
現場代理人 三浦喜代見

●河川災害関連工事（北浦）  
護岸工四八〇m  
工期 五年一月二十九日  
現場代理人 渡部邦明

●地方道舗装新設（蒲沼）  
面積五、一五〇㎡  
工期 七月二十四日  
現場代理人 佐藤忠成

●秋田港防波堤工事  
シーロック25屯型製作  
工期 六月三十日  
現場代理人 石川 守

## 年度末完成工事



今年も暖冬異変といわれ、降雪量は少なかったものの天候は不順で、年度末工期の各現場は大変苦勞しましたが、現場担当者の日曜、祝日返上の頑張りでも無事完成させました。ご苦勞様でした。

# 安全重点 事業場の指定解除

るれさ

## ゼロ災目指して引続き努力を

当社は、昨年四月に秋田労働基準監督署から、労働災害防止重点事業場に指定（通称店社指定）されており、当社が認められ、三月末日をもって指定が解除されました。平成二年は、当社にとって災害が多発した年でした。

# 太極拳で心身統一

## 冬季安全講習会



平沢次子先生

労働災害を比較する場合は、発生件数と従事労働者数とで割出した度数率を使用しますが、当社の比率は全国平均を上回っており、災害多発事業場といわれてもやむをえない状態でした。

当社は、昭和六十三年にも店社指定されており、早く汚名を挽回しなければなりません。

監督署の角間崎主任監督官は毎月のように当

していただきました。そのお蔭もあって、昨年度はゼロ災こそ達成できなかったものの、職場の安全意識が向上し、全従業員が災害防止に真剣に取り組む風が高まりました。

が、特殊なものがないということは一寸した注意で防止できるという反面、一寸油断すれば、誰でも、いつでも事故を起こす危険性があるということなのです。

### 腕をしっかりと伸ばして



自分と同じ立場の同僚が、どんな状態で怪我をしたか認識し、同じ誤りを繰返さないよう注意しなければなりません。

物損事故については、秋本副委員長が担当しました。物損事故の大部分は、車両の運転に係わるものであり、秋本副委員長は建設機械課長代理の職務柄、説明しにくかったと思いますが、率直に分析してもらいました。

となるのは、機械、器具を大事に取扱う気持ちと、ひと呼吸おいて確かめる心の余裕です。あわてて操作しないよう気を付けましょう。

◆ ◆ ◆  
太極拳は、あきた社会保険センターの平沢次子先生に指導していただきました。

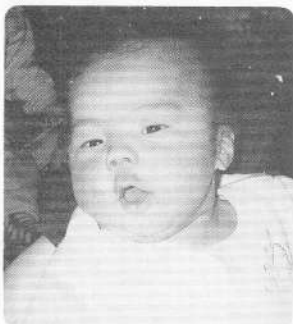
太極拳は、中国古来からの健康法ですが、現在はスポーツとして、精神統一法としてブームを呼んでおります。

にこやかな表情の平沢先生も、ひとたび実技に入ると全身が引締まり、特に眼が鋭く厳しくなり、参加者も自然に真剣になって、慣れない所作ながらも一生懸命でした。

太極拳の経験が、間接的にも仕事や安全に役立つもの大いに期待されます。

総務課

伊東俊博さんの次男



こんにちは  
赤ちゃん

貴 行ちゃん

平成四年一月二十六日生

安全 + 十訓	
一、いつも元気でほからに	二、互いに仲よく協力し
三、指示や注意はよく守り	四、身仕度キチンと整えて
五、整理整頓第一	六、機械や器具はよく調べ
七、作業は正しく順序よく	八、連絡合図はしっかりと
九、無理と油断はケガのもと	十、わからないことは
さしずけて	
(株) 加藤組	

秋田建設運輸 輸送主任

船木秀悦さん一家



長女 千恵美さん(26歳)  
次女 千佐子さん(21歳)  
妻 さよ子さん(45歳)  
孫 翔太ちゃん(3歳)  
明日香ちゃん(2歳)

船木秀悦さんは、昭和五十三年九月に入社以来、一貫して運転業務に従事してきました。温厚な人柄で安全運転に徹し、現在は輸送主任として十数名の運転者のリーダーとして頑張っております。如才のない性格については懇親会などの司会役ぶりですが、さんご承知のとおりですが、安全標語の常連で、特に昭和六十三年度には「眠っちゃならない心の眼、起こしちゃならない事故災害」で見事に金賞を獲得しました。

長女の千恵美さんは結婚し、秋田市で飲食店を経営するかわら、化粧品の販売なども手がけ、元気にやっております。一男一女に恵まれております。次女の千佐子さんは、昨年短大を卒業し、秋田市の保育園に勤務しており、現在、金川台の家は奥さんと二人きりの静かな暮しです。

奥さんは昨年、体調をこわしましたが今では全快に向っており、二人の娘さん、二人のお孫さんが訪ねてきたときなどは、笑いの絶えない賑やかなファミリーです。

加藤組のあゆみ 15

青藤会の発足

師走に入って間もない昭和四十六年十二月五日の朝、各現場に従業員を送り出し、一段落した七時三十分過ぎに事務所(当時は脇本駅前)に電話がかかってきました。現場に向った送迎用の大型バスが、男鹿中牧野のT字路で人を轢いてしまったという第一報です。

その日は、朝から雪まじりの木枯しが吹いており、私は寒さに震えながらも、怪我程度で済めばよいと祈りながら現場へ駆けつけました。事故現場には沢山の人がおり、バスの下には二人の人が横たわっていました。見ると当社の男女従業員でした。

遺体に手を触れると、まだ温かみが残っており、死亡事故という重大さが夢みたいな感じがしました。現場は、県道男鹿公園線と琴丘男鹿公園線が交差するT字路の、牧野バス停があるところです。いつも従業員はバスの乗車口側に立っているのに、その日に限って、反対側の民家の庇で待っており、バスが来たので急に飛び出し道路を横断しようとしたのでした。当日は、たまたま代りの運転手で、停留所に人がいないので通り過ぎようとしたのではないかと思えます。

いずれにしても、会社のバスで会社の従業員が同時に二人も死亡するという悲惨な事故でした。早速、事故防止対策をたてる必要があり、それには運転免許所有者全員に対して交通安全思想の啓蒙、普及、そして事故を絶対起こさない活動をしなければなりません。

そのために、全員参加の組織づくりをしようということになり、伊勢本部長等の尽力により、昭和四十七年二月十七日に「青藤会」という名称で設立総会を開催し、初代会長に当時常務の天野実氏(現光飯商事役員)が就任しました。それ以来二十年、この精神を継承し、事故のない明るい職場作りのため、安全集会、安全講習会を実施してきました。そして今年四月からは、協力会と共催で、全従業員を対象とし、現場の安全対策も含めて実施することになったことは、皆さんもご承知のとおりです。

青藤会発足当時の世相は、札幌冬期オリンピック大会、沖縄復帰、日中国交回復、日本列島改造論などで、歌謡曲では「わたしの城下町」がヒットしていた頃です。建設業界も高度成長期の恩恵を受けて活気を呈し、男鹿周辺の作業員の標準賃金は、男が二千元、女が千円という時代でした。(専務取締役 沢田正司)

編集後記

平成四年度の国の予算が成立しました。今年度は、公共事業の前倒し発注により景気を浮揚させようという方針と聞いておりますが、こういうときこそ、年度の後半まで見とおした施工計画を樹て、余裕をもって進めていきたいものです。

長い間  
ご苦労様でした  
自己都合による退職

- 渡部美穂子さん 1・31付
- 高桑美香子さん 1・31付
- 吉田 一秋さん 2・29付
- 西方 鍊悦さん 3・31付
- 荒木 聡さん 4・11付

佐藤土木課長ほか三名に、労働時間短縮についての意見を述べてもらいました。現実の問題として極めて難しい状態ですが、健康維持のためにも、皆さんで真剣に考えていかなければなりません。

桜が咲き、若葉の緑が鮮やかな陽気のいま、年度末の疲れを早く回復させ、新しい年度の仕事に、健康とファイトで挑戦しましょう。